

兵庫 県  
保険医協会

# 西宮 支部 ニュース 芦屋

No. 373  
2024・12・15

発行

連絡先

〒662-0832

兵庫県保険医協会 西宮・芦屋支部

兵庫県西宮市甲風園1-1-15 法貴皮膚科内

兵庫県保険医協会 電話〇七八(三九三)一八〇一

## 第44回支部総会記念市民講演会(感想文)

「10の手口」に騙されなくて世界を変えるのは、あなた自身  
水俣病と原発災害への取り組みから見える日本」

### 分断させるための言説に惑わされないために

西宮・芦屋支部は、10月19日(土)、西宮市立勤労会館で第44回支部総会を開催。4人が参加し、2023年度の活動のまとめと2024年度の活動方針などを盛り込んだ決議を全会一致で採択した。

総会にあわせ、環境ジャーナリストのアイリーン・美緒子・スミスさんを講師に市民公開講演会「10の手口に騙されないで世界を変えるのは、あなた自身」水俣病と原発災害への取り組みから見える日本」を開催。会員・市民ら60人が参加した。参加した林田英隆先生の感想を紹介する。



講師のアイリーン・美緒子・スミスさんは、1950年に東京で、アメリカ人の父と日本人の母のもとにお生まれになりました。米スタンフォード大学を中退し、コロンビア大学で環境科学の修士号を取得。1971年に来日し、後に結婚されるアメリカ人の報道写真家ユージン・スミス氏と、日本の工場が起こした「最大の食中毒事件」水俣病取材のため、水俣に3年在住して住民に密着し、取材と報道を行ってこられました。

水俣病は新日本窒素肥料水俣工場のアセトアルデヒド酢酸設備内で生成されたメチル水銀化合物が工場廃水に含まれて排出され、水俣湾内の魚介類を汚染し、その体内で濃縮されたメチル水銀化合物を保有する魚介類を地域住民が摂食することによって生じたもので、1953年から1960年代にかけて熊本県水俣市で発生しました。この病気は神経系の疾患で、手足のしびれやふるえ、言語障害や歩行障害などの運動失調等を発症させる病気で、

彼女は水俣病の患者や家族の日常の姿、原因と闘う人々の姿を写した夫婦共作の写真集「MINAMATA」を1975年に米国で出版(1980年に日本語版)し、水俣病を世界に「見える化」されました。水俣病の認定は「公害健康被害の補償等に関する法律」に基づき行われており、2021年10月末までに認定された患者さんは、2999人です。68年経過する現在でも救済を求める裁判が9例もあるそうです。

アイリーンさんが「水俣」と「福島」は共通点が多いと話した  
① 誰も責任を取らない/縦割り組織を利用する ② 被害者や世論を混乱させ、「賛否両論」に持ち込む ③ 被害者同士を対立させる ④ データを取らない/証拠を残さない ⑤ 小さな時間稼ぎをする ⑥ 被害を過小評価するような調査をする ⑦ 被害者を疲弊させ、あきらめさせる ⑧ 認定制度を作り、被害者数を絞り込む ⑨ 海外に情報を発信しない ⑩ 御用学者を呼び、国際会議を開く)に立ち向かう事の大切さについて語られました。

最後に、事故から13年経過した福島原発事故の災害についても話されました。元来、人は1年間の被曝量は1ミリシーベルトまでとされてきましたが、20ミリシーベルトまでは我慢しなさいとされ、今、福島の子どものも含めて住まわされているということ。また、原発汚染水の海洋放出についても熱く語られました。参加者からも質問があり、あつという間に2時間が経過しました。

【西宮市 林田英隆】

#### 【参加者の感想】

○実際の写真をたくさん見せてもらったの解説はとても迫力があつた。まだまだミナマタは終わっていないことを学べた。テーマも講師も大変良かった。原発事故の記憶が風化しているようなメディアや風潮があるなか、改めて問題意識をもつことができた。

○水俣病と原発事故が繋がっているとよく分かった。

○物事の本質をシンプルに捉えること、分断するための言説にまどわされないこと、事実を見つけないこと。たくさんの方を教えていただき、考えさせられた。

○アイリーンさんが若い時からミナマタの被害者の側に立ちつき主人とともに闘われてきたことに心より感謝したい。また、いまも原発運動に頑張られていることに感心した。

○アメリカの原発事故の現地でも学ばれて日本に持ち帰ったその体験を「見える化」しながら私たちに伝えていただいているアイリーンさんの取り組みに深く感動した。

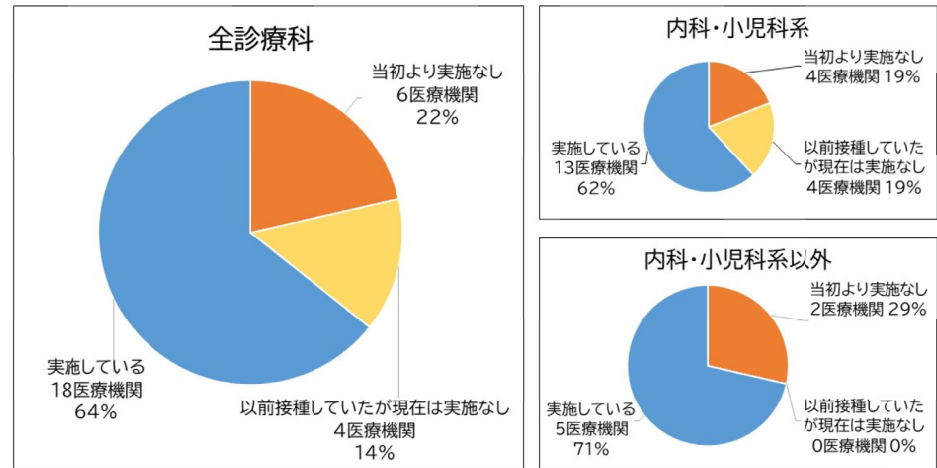
○多くのことを体験されたアイリーンさんだからこそ、希望を持ち行動されているというお話を聞け、あきらめるのはまだ早いと思った。自分もあきらめずなにか出来ることを諦めずに行動したいと思った。



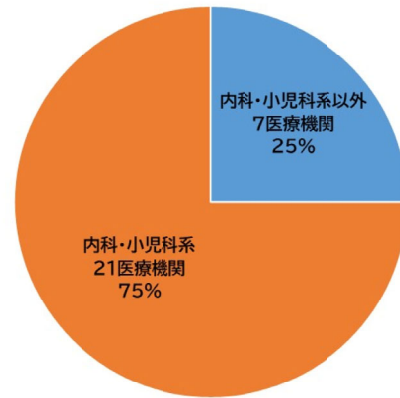
会員・市民ら60人が参加し、発言や質問も相次いだ



### ◎新型コロナワクチンの接種

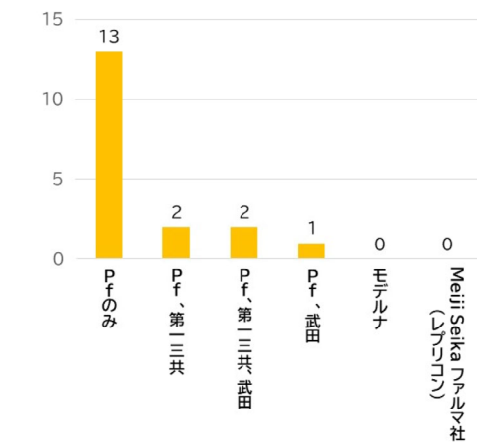


### ◎診療科内訳



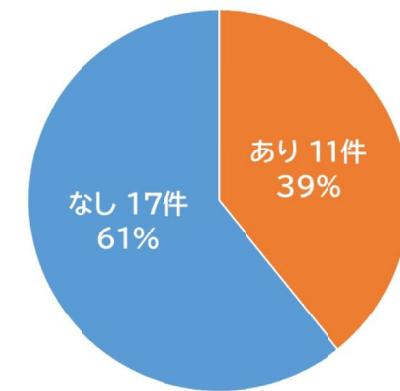
診療科	施設数	新型コロナの診療
内科・小児科系	21施設	全てが診療実施
内科・小児科系以外	7施設	うち3施設が実施
整形外科	3施設	1施設が診療実施
泌尿器科	2施設	1施設が診療実施
乳腺外科	1施設	1施設が診療実施
皮膚科	1施設	診療なし

### ◎実施施設での使用製剤



- 選定理由**
- ファイザー(Pf)**
    - ・1人1バイアル
    - ・冷凍保存でない
    - ・シリンジである
    - ・安定供給されている
    - ・以前から使用
    - ・信頼できる
    - ・これまで3年の歴史がある
    - ・新薬では問題があるように思えた
    - ・返品が可能
    - ・患者希望
  - 武田**
    - ・不活化ワクチン希望者がいた
    - ・シリンジ製剤で使いやすい

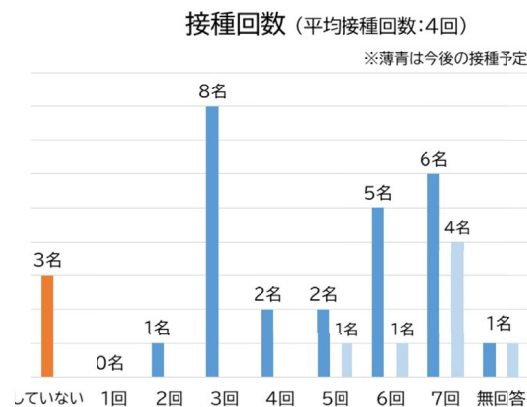
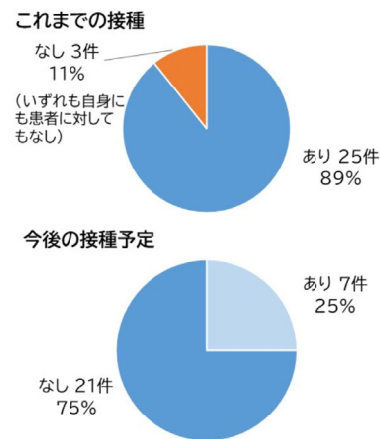
### ◎ワクチンでの有害事象



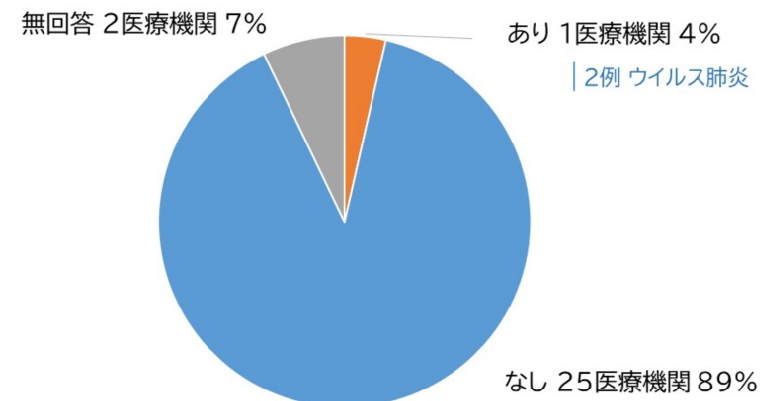
- ・突然死 1件
- ・死亡 1件
- ・不整脈 af 1 多発性VPC 1
- ・脳梗塞 複数
- ・脳梗塞疑い 1件
- ・血栓症 1件
- ・血栓症による障害 1件
- ・脳脊髄障害 1件
- ・失神 1件
- ・帯状疱疹 複数
- ・原因不明の発疹 1件
- ・味覚障害 1件
- ・肝癌再発 1件
- ・自己免疫性肝炎 1件
- ・リウマチ膠原病悪化 1件
- ・リウマチ膠原病の新規発症 1件
- ・上肢脱力 1件
- ・歩行障害 1件
- ・手関節痛 1件

※全例副作用疑い報告はなし

### ◎先生ご自身のワクチン接種



### ◎ 5 類感染症移行後死亡例



西宮・芦屋支部は11月4日(月)～11月11日(日)に新型コロナワクチン接種についての会員Webアンケートを行った。医科会員の568医療機関を対象に行ったもので、7日間で28件の回答を得た(回答率4・9%)。結果を報告する。

「報告」ないケースの掘り起こし急務か

約4割の医療機関でワクチンによる有害事象を経験

新型コロナワクチン接種会員Webアンケート(結果)

結果を受け、支部世話人会では「有害事象とは薬物投与の中で起こる好ましくないもので、医薬品との因果関係は問われない。それをあげていかなないと本場の副作用は見えてこない」「現場の状況をざくっと把握することが大切です」との意見が出された。

結果はwebでもご覧いただけます

<https://bit.ly/4fSYZVm>